

令和2年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名： 河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業(総合流域防災事業) (立川)
継続・中止理由	<p>立川は伊万里市黒川町を流下し、伊万里湾に注ぐ河川で、付近には国道204号や病院等があり、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、平成18年9月をはじめ、流下能力不足が原因で、流域に度々浸水被害をもたらしている。</p> <p>このため、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ってきた。</p> <p>これまでの事業の進捗としては、令和元年度末までの進捗率で約57%(事業費ベース)となっている。</p> <p>地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれており、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。</p>
B/Cの算出方法	<p>改修前の堤防に対して計画規模の流量を発生させ越水した場合の浸水被害額を算出し、それをB(便益)とする。</p> <p>河川整備費及び50年間の維持管理費をC(費用)とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総便益額(現在価値化した総便益) <li style="padding-left: 20px;">B = 5,478百万円 ・総費用額(現在価値化した総費用) <li style="padding-left: 20px;">C = 3,030百万円 ・B/C = 5,478 / 3,030 = 1.81 費用対効果
備考	

令和 2 年度再評価対象事業箇所 (事業採択後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)	備考
	立川河川整備交付金事業(総合流域防災事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。	全体事業費：26.7億円 事業期間：H22～R7 改修延長：L=900m 計画流量：95 m ³ /s 計画治水安全度：1/10 事業内容： 掘削・築堤、護岸、橋梁2橋、樋管1基、水門1基	河口部の水門および新田橋下流の河道掘削が完了している。 (R01末進捗率 57.3%) (年平均進捗率5.7%)	(過去の災害実績) H14.9 浸水戸数 床上18戸 床下31戸 H18.9 浸水戸数 床上30戸 床下28戸 (地域の状況) 下流沿川には家屋が密集し、国道204号バイパス完成後、商業施設が進出するなど、今後も発展が見込まれる。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算定した。 ・総便益(一般資産被害額・農作物被害額・公共土木施設等被害額等) B=5,478百万円 ・総費用額 C=3,030百万円 ・現在(B/C) 1.81	(コスト削減策) ・掘削土を堤防盛土や埋戻土にするなど建設副産物を有効利用する。 ・護岸の裏込材に再生クッキーラフを使うなど再生材を積極的に使用する。	新規評価実施後10年が経過	継続(理由) 地域の状況から、事業の必要性は一層高まっており、地域住民の安全・安心な暮らしに寄与するため、事業を継続したい。	

